

# エコタウンまつえ



●発行日  
2020.10.1  
●編集  
エコタウンまつえ編集室  
(松江市環境政策課)  
●E-mail  
k-seisaku@city.matsue.lg.jp  
●TEL  
(0852)55-5278  
●FAX  
(0852)55-5497

## ビオトープを美しく

### 松江湖城ライオンズクラブ

「ビオトープ」とは人工的に小さな池を作り、その中で生物が自然な状態で生息していることです。そこでは生態系の縮図を見ることが出来ます。

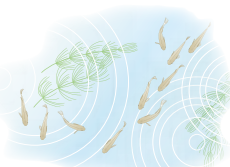


きれいになったビオトープに笑顔

ビオトープを母衣小学校付近に作ったのは「松江湖城ライオンズクラブ」(約80人)で、毎年ビオトープの管理や周辺の草刈りをしており、今年も実施。草刈りは自然を配慮して除草剤を使用せず、草刈り機や鎌を使用。

「ビオトープには絶滅危惧Ⅱ類に指定されているメダカなどの生き物も豊富です。憩いの場として多くの人に気持ちよく利用してほしい」と30年近く参加している当クラブの松本匡弘さんは語りました。クラブでは水郷祭の後の六道湖周辺のごみ拾いや、献血などさまざまな活動をしており、活動の数は年間30〜40件にも及びます。

「松江市は以前よりごみが減ってきれいになった」と語る一方で、「ビニール製品やプラスチックのごみのほか最近ではマスクのごみが特に目立つ。一人が一つごみを捨てなければ、それだけでまちがきれいになるという意識を持つてほしい」と松本さんは語りました。(山口稜記者)



ビオトープ周辺を草刈り

## 有料化後のレジ袋についてどう考えるか

令和2年7月1日から全国一律に開始された「プラスチック製買物袋の有料化制度」、有料化はなぜ必要なの? これからどう対応したらいい? 疑問についてのヒントを考えます。

先行して始まっていたスーパーなどに続き、コンビニや百貨店など全国すべての小売店で制度が始まりました。レジ袋は使いやすさから全国で年間約300億枚消費があったとされています。

当たり前に身近にあったプラスチック製の袋は、軽く、分解されにくいことから、ポイ捨てなどで川から海へと流れ、海洋汚染につながります。それが細かくなった「マイクロプラスチック」は海中の有害な化学物質を吸着し、魚などが餌と間違えて食べると魚の体に蓄積され、それを人間が食べることとなります。

これらの深刻な環境問題を背景に、プラスチックごみの抑制を目的として制度が導入されましたが、私たちが日常生活の中でできることは何か。

まずはマイバッグの持ち歩きを習慣付け、レジ袋を断ること。家にとっているレジ袋があれば大切に再利用すること。

穴が開いたり使えなくなったたりしたもので汚れていないものを処分する場合、「プラマーク」の印刷があるものは「プラスチック製容器包装」資源として、汚れているものやマークが無いものは「もやせるごみ」として適正に処理する必要があります。

レジ袋は、ごみ袋や小物袋として再利用ができ、私たちの生活にとっても便利なものですが、枯渇していく石油資源を大量に消費して作られていますし、結果的にプラスチックごみの増加にもつながっています。

有料化を機会に、海洋汚染をはじめとする地球規模の問題にも目を向け、いま一度、レジ袋の必要性について見つめ直してみませんか。

(安達善子記者)



プラスチックの袋を餌と間違えて食べるウミガメ

# 徒然環境日誌「二十二話」世界と日常

島根大学大学院教育学研究科教授 松本 一郎

日常はどこに行っただのでしょうか。いや、日常は常に存在しています。季節の変化、虫の声、それはいつもと変わりません。人が人間として自然の一部であることを特に感じる昨今です。また、人間と自然のあり方、また、人と人の繋がりを感じ、考え、行動に移す機会と捉えることが必要です。

日常、それは地域の中で学び、働き、生活をする、そんな日々のこと。地域での営みは、世界的に共通する新型コロナウイルス感染症の影響で、相対的に制限される状況が続いています。正に世界が一つになりこの状況に対峙する時。人類の英知と団結力、誇りが試されています。しかし、世界は決してそのような一枚岩とは言えません。

世界、地球の長い時間軸の中ではその日常は常に変化しています。人間は、地球46億年のその歴史の中から学ぶ時です。地球時間の中では大地は大きく動き、生物はその種も変化します。どこかで変化は訪れます。一人の人生の短い時間の中でもそれは起こります。1億6千万年を生きた恐竜も、短時間で世界から姿を消した事を思い出しません。

青い空を見上げます。日常がそこにあります。この空は世界とつながり、また悠久の地球のはるか昔の空ともつながっています。

過去があるから今があります。変化は「今」という日常の中に存在します。現在から未来へと移りゆく時間の中で、持続可能な社会の実現が不可欠です。それは常に変化する日常の風を読み、変化に柔軟に対応していく事。また、時には風に立ち向かい、変化を起こしていく事が必要かもしれません。青い空を見上げる時、この空がいつまでも私たちに共にありますようにと願います。



青い海と空が美しい島根町の大芦海岸。 おわし

## ごみ処理の事 どこまで知っていますか？

○このマークはなに？



- ① 大量の花や野菜を箱に入れて出す時に張り付けるシール
- ② 段ボールのマークで古紙として出す
- ③ パソコンのリサイクルマークでメーカーが無償で引き取る製品

このマークは、資源物として回収されることを示しています。資源物の回収は、環境保護のために重要です。資源物の回収は、環境保護のために重要です。資源物の回収は、環境保護のために重要です。



## 10月は食品ロス削減月間

食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品のことです。

日本の食品ロス量は年間約600万トン、日本人1人当たり毎日お茶碗約1杯分を捨てている計算です。

**やめよう買いすぎ!** (買い物前に今ある食材を確認)

**やめよう作りすぎ!** (食べきれぬ量を作る)

**やめよう注文すぎ!** (食べられる量だけ注文)